

“地域内資源を活用した安心・元気な集落づくり！”

はせげぼら 長谷毛原生活圏(紀美野町)

現況

【人口】586人【集落数】6集落【高齢化率】51.9%
【世帯数】272世帯【高齢者一人暮らし世帯】77世帯
【施設等】毛原保育所(6名)、毛原小学校(13名)
長谷毛原中学校(7名)、海南高校美里分校(36名)
毛原郵便局、JAながみね美里農産加工所
たまゆらの里、ガソリンスタンド、長谷毛原診療所

【主産業】農業(水稻、山椒、クレソン)
耕作面積:36ha
耕作放棄地:20ha 販売農家:44戸
【鳥獣被害】シカ、イノシシ、カラス、サル
【特産品】クレソン、山椒
【地域資源】毛原小学校旧校舎、たまゆらの里、オートキャンプ場(二箇所)、大日寺、泉福寺、丹生狩場神社、長谷丹生神社、高野往来

【生活環境】

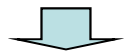
- ・コミュニティバス(厚生病院～長谷宮、6便/日)
- ・移動販売(2業者、週2～3回、肉、魚、食料品中心)
- ・商店11店舗(食料品、日用品、電気店、ガソリンスタンドなど)
- ・飲食店(3店舗)

課題

地域内資源を有効活用した取り組みがされていない

- ・耕作放棄地の増加による地域の衰退が著しい
- ・地域内資源を活用した地域内外交流と誘客がなされていない

対策



《 1. 生きがい・交流対策 》 12, 476千円(県:3, 972・町:8, 504)

●耕作放棄地を活用した所得の創出【寄合会、紀美野町】

- ・耕作放棄地を活用し、バーベキュー用食材(タマネギ、ピーマン、なすび等)及びブルーベリーを生産し、地域内の宿泊施設「たまゆらの里」(年間3万人利用)に販売

●地域内資源を活用した所得の創出【老人会、寄合会、紀美野町】

- ・地域内で採れる農産物の新たな販路開拓
(県外)県中小企業団体中央会と連携し、都市部(吹田市阪急北千里駅)で販売(月3回)
(県内)「たまゆらの里」での軽トラ市や周辺の直売所で販売
- ・地域内の豊かな自然を活用した体験メニューによる活性化
「たまゆらの里」と連携し、山菜採り、田植え、米収穫、鮎・アマゴ釣りの体験メニューを実施し、体験料を受領

●地域内資源を活用した交流機会の創出と誘客【老人会、サロン会、毛原小学校、長谷毛原中学校、寄合会、紀美野町】

- ・木造校舎「毛原小学校(旧校舎)」を地域住民により交流拠点として再生
- ・地域内外交流を図るため、地域ゆかりの専門家が講師となった「ふるさと教室」(漫画、陶芸など)を開催

課題

少子高齢化の進行による地域力の低下が深刻

- ・移住希望者の受け皿となる施設がなく移住が推進できていない
- ・地域ぐるみで高齢者の安心・安全を確保する取組がない

対策



《 2. 定住・文化対策 》 6, 290千円(県:3, 290・町:3, 000)

●移住希望者と地域のお見合い期間の設定【寄合会、紀美野町】

- ・移住希望者の一時的な滞在場所を整備し寄合会がサポート
- ・空き家の掘り起こしや貸借交渉を寄合会が実施し定住を促進

●診療所医師と連携した高齢者対策の実施【寄合会、サロン会、紀美野町】

- ・診療所医師と連携し、高齢者の緊急時搬送体制を確立
- ・地域住民ならではのきめ細かい高齢者への声かけを実施

●伝統文化継承の取組と世代間交流の促進【親子クラブ、PTA、寄合会】

- ・元教員が中心となり伝統文化を継承・保存するための教材を作成
- ・高齢者と小中高等学校生徒が伝統芸能を通じた世代間交流を実施

目指すべき姿

- 地域内資源を活用し、地域の自立をめざす！
- 移住→定住で地域の活気を取り戻す！

【事業期間】H26. 11～H29. 3

【事業主体】寄合会、老人会、区長会、毛原保育所、毛原小学校、長谷毛原中学校
海南高校美里分校、PTA、保護者会、民生委員、親子クラブ、サロン会
だんじり保存会、紀美野町

全体事業費18, 766千円

県 7, 262千円

町 11, 504千円